第５部　課題

第１９回
毎日パソコン入力コンクール
全国大会
【課　題】
第５部　和文Ａ　小学生高学年
ことわざ・慣用句②
制限時間５分

【コンクール当日の注意事項】
１．競技委員の指示があるまで、この用紙に手を触れないでください。
２．競技委員の指示にしたがい、１８桁の参加番号を半角数字で入力してください。
３．課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館　例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
（文字数２，４００字程度）

＜課題文章の禁則文字について＞
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のＰＤＦファイルどおりに入力すると正解になります。

主催　毎日新聞社
一般社団法人　日本パソコン能力検定委員会
後援　総務省
文部科学省
厚生労働省
経済産業省 ほか

1行３２字詰で、つぎの文章を入力してください。

※ ↵ の箇所で改行（Enter）してください。

きんせんにふれる↵
感動する。心を打つ。胸を打つ。↵
先生の言葉が心のきんせんにふれる。↵

↵
身から出たさび↵
自分のやった悪い行いのために、自分自身が苦しむこと。↵
成績が悪いのは努力不足で身から出たさびだ。↵

↵
念を押す↵
さらに確かめる。重ねて注意する。↵
必ず六時に起こしてと念を押す。↵

↵
意気投合↵
おたがいに、気持ちや考え方がぴったり合うこと。↵
初めて会った時から二人は趣味が合って意気投合した。↵

↵
半信半疑↵
半分は信じ、半分は疑うこと。↵
うわさ話を半信半疑で聞く。↵

↵
どんぐりの背比べ↵
どれもみな変わりばえがなく、特にすぐれたものがないこと。↵
どの作品もどんぐりの背比べで、そう変わらない。↵

↵
かたみがせまい↵
はずかしく思う。引け目を感じる。↵
初戦で負けてしまい、なんともかたみがせまい。↵

↵
悠々自適↵
俗世間からはなれて、自分の好きなように楽しんで、静かに毎日を過ごすこと。↵
好きな絵を描いて悠々自適に暮らす。↵

↵
単刀直入↵
前置きをしないで、いきなり本題に入ること。直接ずばり要点に入る

こと。
単刀直入に言って、この意見に反対です。

白羽の矢が立つ
たくさんの中から、特に選び出される。
ドラマの主役として、彼に白羽の矢が立つ。

読みが深い
先の先まで深く見通している。多方面から深く考えている。
雨天の準備までしてくるとは、さすが読みが深い。

いい気になる
得意になって、うぬぼれる。
優勝したからといっていい気になるな。

二階から目薬
ものごとが思うようにならないで、もどかしいこと。また、やり方に無理があって、効果がないこと。
それとなく言ったぐらいじゃ二階から目薬で効き目がない。

頭角を現す
才能や技能が、ほかの人よりも特にすぐれて目立つ。
新進気鋭の作曲家として頭角を現す。

明けても暮れても
夜が明けても日が暮れても。昼も夜も。毎日。いつでも。
明けても暮れてもひたすら練習に打ちこむ。

てこでも動かない
どんな方法をとっても、その場を動かない。どんなことがあっても、考えや気持ちを絶対に変えない。
いったん言い出したらてこでも動かない。

胸を貸す
実力のすぐれている人が、実力のおとっている人の相手をしてやる。

後輩の練習相手になって胸を貸す。

波長が合わない
気持ちや思いが通じない。
彼とはどうも波長が合わない。

首を長くする
待ちこがれる。待ち遠しく思う。
今か今かと首を長くして待つ。

赤の他人
まったく関係のない人。
同じ名字だけど、赤の他人です。

竜頭蛇尾
はじめは勢いが盛んだが、終わりになるにしたがってふるわなくなること。
花火大会は途中から雨に降られて竜頭蛇尾に終わる。

骨折り損のくたびれもうけ
苦労ばかりして得るところがないこと。苦労しがいのないこと。むだぼね。
苦労して準備したのに、雨天中止で骨折り損のくたびれもうけに終わった。

取り付く島もない
たよりにして取りすがる所がない。冷たく見放される。
何を聞いても返事もしてくれず取り付く島もない。

千差万別
たくさんの種類があって、それぞれがみんなちがっていること。
人間のしもんは千差万別で、同じ形はない。

隣の花は赤い
他人の物は自分の物よりよく見えて、うらやましく思えるものだ。
隣の花は赤いで、君のほうがおいしそうね。

水と油

たがいに、性格や考え方がちがい、気が合わないこと。
二人はまるで水と油だ。

業を煮やす

腹を立てていらいらする。
バスがいつまでも来ないので業を煮やす。

舌を巻く

ことばが出ないほど、おどろいたり、感心したりする。
相手選手の見事なわざに舌を巻く。

手塩にかける

自分の手で、最初からめんどうを見て大切に育てる。
手塩にかけて育てたアサガオが今朝花を咲かせた。

堂に入る

学問や技術などが、しっかり身についている。
堂に入った司会ぶり。

用意周到

用意が細かいところまでゆき届いていて、手ぬかりがないこと。
用意周到に登山のための準備をする。

判で押したよう

同じ事のくり返しで変化のないようす。
判で押したように毎朝五時に散歩に出かける。

目は口ほどに物を言う

目は、口で話すのと同じぐらいに、相手に気持ちを伝えることができる。
目は口ほどに物を言うで、目を見ただけでがっかりしているのがわかった。

顔が立つ

めいよが守られる。めんぼくが立つ。
金メダルを取り、これで顔が立った。

絶体絶命
追いつめられて、どうしても逃げる方法がない。危険な状態になるようす。
無死満るいの絶体絶命のピンチをむかえる。

口が重い
口数が少ない。あまりしゃべらない。
家ではよくしゃべるのに外では口が重い。

傍若無人
勝手気ままにふるまうこと。
子供が電車の中を傍若無人にかけめぐる。

遠くの親類より近くの他人
いざという時には、遠方の親類より、近所の他人のほうがたよりになる。
困っていたら、となりの人が助けてくれて、こんな時は遠くの親類より近くの他人ね。

二の句が継げない
あきれたりおどろいたりして、次のことばが出てこない。
相手の剣幕に気が動転して二の句が継げない。

隅に置けない
思ったよりすぐれていたり、よく知っていたりして、ばかにできない。
声がよくて、カラオケがこんなにうまいとは隅に置けないね。

牛に引かれて善光寺参り
自分の考えでなく始めたことが、知らない間に良い行いになっている。いやいやしているうちに、だんだん熱心になる。
はじめは子どもにせがまれてつりに行っていたのだが、牛に引かれて善光寺参りで、今ではやみつきになってしまった。